

令和7年2月25日

令和6年度 世田谷区立北沢中学校自己評価報告書
(令和5年度の改善方策について実行した改善結果)

北斗の学び舎
世田谷区立北沢中学校
校長 今 田 敏 弘

1 北沢中学校 教育目標

- (1) よく考え進んで学習にうちこめる人
- (2) 豊かな心を持ち責任をもってやりぬく人
- (3) 健康で気力に満ち行動力のある人

2 教育目標を達成するために、さまざまな教育活動を通して育成する非認知能力

- (1) 目標を達成する力
- (2) 他者と協働する力
- (3) 自分の感情をコントロールする力

令和6年度は、教員のコーチングスキル、ファシリテーションスキルを活用する場面を増やした。校内研修で、学級経営を取り上げ、生徒集団の質の向上を目指した。その結果、下の数値目標では、数値目標には及ばなかった項目もあるが、昨年度より肯定的評価の割合が増加した。さらに、特別の教科 道徳、各教科で、道徳的価値について理解して話し合いを深めることや教科に応じた理由や根拠を明確にした深い学びに発展するように指導することが課題である。

3 重点目標・数値による指標

令和6年度については、以下のように設定して教育活動を進めた。

- (1) 「ことばの力」を基盤として、教育の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
- (2) 教育活動全体を通じて、質の高いキャリア教育を展開し、自分らしい生き方を学び、自分づくりができる生徒を育成する。
- (3) 触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、学級・学年・学校への帰属意識を一層高める。行事等において、企画・立案の段階から生徒を参加させ、充実感を持たせ、学校生活の面で「認められている」と感じる状況を増やし、自己有用感をもたせる。

数値目標1 「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」と感じる生徒の割合を85%以上にする。

数値目標2 「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」生徒の割合を85%以上にする。

数値目標3 「生徒同士がお互いに思いやり、良さを認めている」生徒の割合を85%以上にする。

全てが数値目標には達してはいないが、昨年度から肯定的評価の割合は増えている。特に数値目標2 キャリア教育に変更をして推進したが、学校関係者評価の結果は期待した生徒の肯定的割合には届かなかった。キャリア教育では、計画的な実施はできたが、キャリア教育についての生徒の理解に課題があった。教員がキャリア教育を深く理解するとともに生徒の実態に応じた指導の工夫や意図的計画的な指導の工夫を図ることが課題であった。

4. 学習指導

教科指導については、「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価をしている」について

学校関係者評価の割合が他の項目と比べ低かった。生徒の学びを励ますと同時に学習への見通しをもたせる評価にするために自己評価を含めて、ねらいと基準を明確に示し、生徒が納得できるようにする。そのためにも「指導と評価の一体化」等の研修を進め、生徒の学習改善と教員の指導改善を図る。

5. 生活指導等

生活指導は、生徒の実態に応じて指導することが基本であり、生徒理解を丁寧に実施することが重要である。また、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成などに留意して生徒一人ひとりが伸び伸びできるような環境づくりを意図的計画的に実施してきた。その結果、生活指導等に関わる項目では全体的に学校関係者評価の結果は、昨年度の生徒の肯定的回答割合より多かった。

次年度に向けて、提言にあるとおり、生活指導は、「自己指導力」を獲得することを目指している。そのためにも、特に、生徒には校則などのきまりの内容や必要性を考える機会をもたせることを通して、責任感や学校への帰属意識を高める。

6. 学校関係者評価委員会の報告書の〔次年度に向けての提言〕

全体として、本校の教育活動は良好であり、今後ともこの方向で継続されることを期待する。
その上で、次年度に向けての以下の提言を行う。

- ①学習指導については、これまでの成果を踏まえて、ICT 活用の成果と課題を確認すると同時に、学習評価のあり方の検討を進める。また、「学力を伸ばす授業」や「楽しく学べる授業」への取り組みを一層進める。
- ②生活指導については、生徒自身が互いに思いやり認め合う場面を設ける。また、生徒が主役となって学校生活を送ることのできる自己指導力を一層高める。
- ③キャリア教育については、各教科・総合的な学習の時間・特別活動などで、生徒が自己理解を深め、自分のあり方を考える中で将来の進路や生き方について考える機会を設ける。また生徒の興味関心や日々の学習が将来の職業にどのように結びつくかに関する情報提供を一層進める。
- ④生徒の主体的学習については、家庭学習や読書など、生徒が家庭等で行う学びを一層支援する。また、地域でのボランティア活動への参加を進め、社会の多様な課題（人権やジェンダー等）に触れる機会とする。
- ⑤保護者・地域への情報提供については、学校の教育方針等についての理解が深まるような発信を行う。また、学校運営委員会・学校支援地域本部（地域学校協働本部）・学び舎の活動をより広く周知し、協力を得るようにする。

結びに 目指す学校像『魅力ある学校』につながる

特色ある学校と開かれた学校を進めるには、学校の教員一人ひとりが、PDCA を意識したマネジメント力（経営力）を付けることが重要である。学級経営、学年経営、教科経営、部活動経営など説明責任をもつことが重要であり、改善を常に進めることを経営方針に明記する。

それによって「生徒が来なくなる学校」「保護者が我が子を行かせなくなる学校」「教職員が明るく働きがいのある学校」「地域にとって親しみと理解と協力のある学校」すなわち『魅力ある学校』を創造する。